

第2回 小諸市健康づくり推進協議会 次第

日時:令和 8 年3月 11 日(水)午後7時~8時35分
場所:小諸市役所第 1.2 会議室

1 開 会

2 挨拶

3 協議事項

(1)令和 7 年度実施状況および令和 8 年度実施計画について

【成人事業について】

- ・高額医療費の分析を行った結果、重喫煙者が多かったとあるが、重喫煙者の検診受診の状況を教えてほしい。
- 肺がんで受診中の方を対象に調査を行った結果、重喫煙者が多かった。
- ・低線量 CT による肺がん検診実証事業の取り組みは素晴らしいと感じるが、対象者にどのように受診勧奨をしていく予定か。
- 現在、実証事業に応募している段階。実施市として取り組む場合は、今まで重喫煙者と把握している方と希望者へ周知をしていく。
- 希望者へ周知。いままで受診していない人の掘り起こしにも期待している。
- ・クーリングシェルターは具体的にどういった事業所が登録しているか。
- 市の公共施設、他にも携帯ショップ・薬局、スーパー、郵便局等に登録いただいている。使用可能な時間は営業時間中で、施設が休みの時は使用できない。
- クーリングシェルターは今後増えて行く予定はあるか。
- 登録事業所は増加している。
- ・健診の受診者が特定健診からいきいき健診へ移行。高齢化なのか意識の問題なのか。
- 国保の被保険者が減っていることもある。来年度は受診勧奨向上のため受診勧奨外部委託も検討している。

【精神保健】

- ・職場のメンタルヘルスについて、従業員 50 人未満の会社で、産業医がどの程度いるか把握しているか。
- 市では把握していない。
- 産業保健センター等の活用も進めていってほしい。
- 従業員 50 人未満の会社は産業保健センターにお願いしている。メンタルの相談は少なく、生活習慣病の管理の健康相談がメインである。日本の企業の 90%は中小企業であり、行政だけで取り組むのは難しいと感じる。精神科医、産業保健師、産業医、衛生産業担当と協力が必要。
- 商工会議所では会員が集まっても、メンタルヘルスの話題はでない。話題に出してみる取り組みも必要か。産業医についても議論できればと感じた。今後も健康づくり課と協力していきたい。
- ・小諸市の自死が多いとのことだが、自殺未遂者・遺族の把握はどうしているのか。どういったいきさつで亡くなったなどの情報はどう得ているのか。
- 自殺未遂者・自死遺族等については、個人の情報が来ることはなく、小諸市の概数のみ

把握している。また医療機関と連携して情報共有をし、相談窓口の周知をしている。病院では把握しているため、病院を通じて対象者へ働きかけていただく等の対応をしている。自殺未遂者に関しては、同意を得た場合、市への情報提供あり。受診に繋ぐ活動行っている。全員が同意するわけではないため、課題もある。

→患者が自死した場合、内科の医師も現地へ行くことあり。ご家族のグリーフケアの必要性を感じる。

→ひとり親になられると相談に来るが、理由を聞くとパートナーが自死したなどの理由も伺う。その場合、案内できるものは情報提供を行っている。子どもの自傷行為の把握し、対応をしている。

・小諸佐久地区はアルコールの問題は多いのか。

→総数は把握していない。国保の統計では、毎日飲酒をする割合は県より低く、減少している。

【母子事業】

・HIV 感染症予防の授業がとてもありがたいが、講師料が高くなっている現状があるため、助成金の値上げをお願いしたい。

→健康づくり課単独の事業でなく、他課との事業であるため、確約できないが検討していきたい。

・妊娠期、3食食べることは大事だが、妊婦は普通に食べても増加しやすい。BMIにより適正な体重増加の目安があるが、BMI に対しての個々の指導しているのか。

→食育 SAT を使用し個々に合わせて食事指導している。

【予防接種事業】

・令和 6 年度、MR ワクチン・おたふくが不足していた。薬局はどう対応していけばよいか。

→ご迷惑をおかけし、申し訳ない。令和 6 年は MR ワクチンが不足した。今年度は不足の事態はなかった。ワクチンが不足した場合の対応は、不足の情報が入ったところで医師会・薬剤師会へ周知していきたい。個人に個別のお知らせは難しいため、広報等で周知していく。

・患者から予約が入り、薬局へ発注した際に、ワクチンが不足していることが分かった。薬局の在庫が不足する場合は、早めに周知してほしい。

→ハブになる薬局には周知していく。

・HPV ワクチンが去年から婦人科医でも打てるようになった。実施医療機関の内訳は把握しているか。

→内科医、小児科医からも請求書の提出がある。

(2)令和 8 年度保健事業の重点事項について

・こもろ健幸マイレージの登録者が 1000 人とのことだが、そのうち、健診を受けている人数はどの程度いるか。アプリを使用し、受診していない層へのアプローチも検討してほしい。

→健診結果の提出者は 200 名弱。800 名ほどは未提出である。

4 その他

(1)東海大学との連携事業でのウォーキングコースの紹介と、ポールウォーキングのデモンストレーションについて

・令和 8 年度の実施時期も決まっているか。

→9 月頃実施を予定している。

(2)「産みたい」に寄り添うまちを目指した女性の健康管理支援事業について

・ルナルナはたくさんの女性がダウンロードしている。どういった経緯で提携したのか。チラシは院内にも設置したい。

→母子手帳アプリ母子モを運営している会社で、株式会社エムティーアイより話をいただいて取り組みが決定した。県内では初めての取り組みである。

(3)産後ケア事業の拡充について

(4)予防接種の変更点について

(その他)令和8年度 特定健診受診勧奨業務について

・事業者は、どういった技術を用いて勧奨するのか。

→過去の健診データを共有し、そこから受診状況等の分析に基づき、個々にあった勧奨通知を作成するというもの。

・受診勧奨は難しい。すでに生活習慣病で受診している患者は健診を受けてくれている方が多い。どこにも受診をしていない層への受診勧奨も検討が必要か。

・経済弱者の格差が大きい。経済弱者の把握も検討をしてほしい。

→経済弱者の把握はしていない。非課税世帯・生保にはがん検診等で無料券を発行している。

5 閉会